

令和 5 年度 第 2 回（秋冬学期）クラス代表懇談会 関係部署からのコメント②

（マルチリンガル教育センター）

2023/12/11(Mon)～2023/12/12(Tue) @サイエンス・スタジオ A (DAICEL Sstudio)

◆マルチリンガル教育センターからのコメント・回答を赤字で記載しています。

1-2. 外国語教育について

【要望】

<必修授業以外での外国語教育について>

- 日本語以外の外国語を学びたい（留学生）

必修の第二外国語であっても、その言語にすでに通じている人が学ぶ（たとえば中国語母語話者が中国語を学ぶ）ということであれば、日本語以外の言語も選択できます。必修以外では、マルチリンガル教育センターが共通教育の授業を提供している高度国際性涵養科目に「初級 I・II（多言語学習用）」という授業があり、その枠でも、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語が学べます。少しハードルが高いかも知れませんが、外国語学部が学部専門科目の授業を提供している高度国際性涵養科目に、兼修語学という授業があり、そこらでも多くの言語が学べます。

- ラテン語・ギリシャ語などを一回生の時から選択して履修できるようにしてほしい（外国語学部）

外国語学部の外国語の履修に関しては外国語学部の教務係等の管轄になります。

- 多言語カフェに参加しやすいように初級・中級などで分けてほしい

このカフェは全学共通教育機構の管轄になります。

- 外国語関係のプログラム・取り組みをもっと周知してほしい

マルチリンガル教育センターの OU マルチリンガルプラザでは、ウェブサイト、X(旧ツイッター)、インスタグラムを用いて発信を行っていますので、ご活用ください。

<https://plaza.cme.osaka-u.ac.jp/>

<e-learning について>

- e-learning の Quiz で戻って解答できるようにしてほしい

学習した知識を問う復習問題ですから、原則として戻って再考する必要はないと考えています。また現状の設定は、全員が公平な条件で受験するためのものであり、TOEFL IPT など、セクションをまたいで戻ることができない試験のトレーニングの意味もあります。

- e-learning のレビューテストは制限時間が来たら自動で提出されるようにしてほしい

残念ながら CLE の仕様により、Quiz での自動提出は設定できません。

- 音声課題の提出のやり直しをできるようにしてほしい
やり直し提出をしなくて済むように、ドラフト提出時に学生自身で音声確認をすることとしています。
- CLE 上での e-learning の連絡がわかりにくい
重要な連絡は KOAN メール・掲示板で発信しています。それ以外の情報については、CLE のコンテンツページからアクセスできます。
- e-learning のスマホアプリ内で課題を完結できるようにしてほしい（PC で CLE を開いてテストをするのが面倒）
パソコンは大学生の知的生産のためには不可欠なツールです。ぜひとも使う習慣をつけてください。スマホアプリは機能に制限があるうえ、テストなどの動作保証がなくリスクです。
- レベル分け（初級・中級・上級）ができるとさらに良くなりそう
大阪大学の外国語教育では、原則レベル分けは行っていません。本授業も、その原則に従っています。
- 簡単すぎる・効果があるかわからない
この授業を導入してから、阪大生の TOEFL ITP スコアは順調に向上しています。このことから教材のレベルは適切で、効果もあると考えています。なお、英語運用能力が例外的に高い学生に対しては、コースワーク免除制度を用意しています。
- speaking や writing にも対応してほしい
発信技能のトレーニングは「総合英語」科目が担当しています。ぜひ活用してください。
- 不正学習の判断基準に納得できない
具体的な疑問があれば、教師と直接話せるオフィスアワーを利用し、ご質問・ご相談いただければと思います。
- 免除申請の方法がわかりにくい
オフィスアワーやメールでお問い合わせください。
- 免除基準が高すぎる
阪大生の中には、通常の英語学習が必要ないほど高い英語能力を持つ人がいます。コースワーク免除はそうした学生のための制度です。これまで、英語が第一言語の人、帰国生、英語資格試験の最上位に相当するスコアや級を有する人などが対象となっています。
- e-learning に費やす時間が長すぎる

大学設置基準は、「一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもつて構成すること」と定めています。つまり 1 週 3 時間の学習が、1 単位分の法的要件として規定されていることを意味します。この規定は、対面授業（予習・講義・復習すべて含む）でも、e-learning 授業でも変わりません。

<TOEFL について>

- TOEFL ITP の試験会場の説明が少し遅かった
試験会場については、来年度から年度開始時からシラバスに掲載します。
- TOEFL ではなく TOEIC を受けたい

大阪大学は、学術研究に必須なアカデミックイングリッシュの習得を教育方針としています。この授業もそれに従い、国際的な学術英語の試験である TOEFL ITP を採用しています。

- TOEFL 取得のメリットを提示してほしい

大学生にふさわしい学術英語運用能力が、正確に測定できます。将来、英語による学術研究活動をするために必ず役立つ試験です。また協定校への留学の場合、参考資料として添付できる場合があります（ただし一般的には、TOEFL iBT スコアを要求される場合が多い）。また、TOEFL ITP で高得点がとれれば、少しのトレーニングで間違いなく TOEIC でも良い成績がとれます。

当科目について疑問等があれば、学期直前の Zoom 説明会や、学期中のオフィスアワー、メール問合せをぜひともご活用ください。

<第二外国語・総合英語について>

- 先生によって大変さや評価の厳しさなど格差がある

（総合英語）授業課題の負担が教員ごとに異なることを是正するのは難しそうです。ただ、授業ごとに評価が大きく片寄ることは望ましくありませんので、偏りがあると思われる授業の担当者には個別に連絡を取り、状況を説明するようにしています。

（第二外国語）課題の多い昨今の大学で学んでいる学生心理としては分かるところもありますが、1つ1つの授業の設計や内容が異なりますので、そこから生じる差をなくするのが絶対的によいこととは言えません。ただ、評価が極端に異なるのは好ましいことではなく、その面での改善は、担当教員に対して、担当したクラスの成績割合を当該科目全体の成績分布と比較ができるようにするなど、取り組みを進めているところです。

- 評価の不平等を緩和するために、統一テストを実施してほしい

（総合英語授）業内容がそれぞれに大きく異なるので、統一テストで成績評価を行うことは望ましくありません。

（第二外国語）基本的には、1つ1つの授業の内容が異なりますので、評価の仕方を統一することは難しいです。また、統一的なテストには、実施面において種々の困難があります。規模などの面でそれが可能な場合、初級文法の科目に限って共通テストを実施して成績評価に組み入れている語学はあります。

- 週2回ある第二外国語の授業の内容が重複しているので、先生同士で連携して質を高めてほしい

懇談会当日のテーブルでのやりとりでは、「重複」があった方がよいという意見も聞きました。初めて学ぶ言語ですので、基本的な文法のことなど、内容面での重なりがあっても、違う角度からの説明を受けたり、違う文に触れたりしながら、相乗効果のなかで定着を図るのは、むしろよいことだと考えています。テーブルで聞いた「連携」で困っている事例には、むしろその逆で、重複を避けすぎているというものがありました。演習のクラスでは文法の説明がなく、文法のクラスは進みが遅い、ということでした。文法クラスの進みが遅いと、演習の方で広げていくのが難しくなりますので、標準的な進度を保つ必要はありそうに思います。なお、基本的な事実として、どの外国語でも週2回のクラスを受講生が完全に一致しているわけではないことを申し添えておきます。

- 総合英語の授業内容を前期と後期で変更してほしい

総合英語は、基本的にセメスターごとに違う内容の授業を受験するようになっています。抽選の関係で同じ内容の授業に配当された場合は、マルチリンガル教育教務係に申し出てください。

- 外国出身の先生の授業説明が日本語でないのが難しい

第二外国語、グローバル理解の場合、これは改善が必要というふうに認識しています。懇談会のテーブルで聞いた授業に関しては、当該の外国語部会にすぐに連絡をしました。そういう悩みが授業で生じている場合は、クラス懇談会の機会を待たずに、教室で担当の先生に相談してもらうのが一番です。難しいようでしたら、ひとまずマルチリンガル教育センターの事務の窓口にご相談してもらうことも可能です。

- 英語で開講される授業を増やしてほしい

共通教育全般の科目を英語で受講して単位の取得をしたいということでしたら、それは全学共通教育機構の管轄になるかと思います（これは項目 1-1 の要望になりそうです）。なお、「国際交流科目」は英語で開講されていて、阪大で学ぶ外国人留学生と一緒に授業を受けることができます。

- 取得できる単位数を増やしてほしい

第二外国語、グローバル理解の場合は、学部によっては、自由選択の単位や高度国際性涵養の単位として、第 2 外国語、第 3 外国語を履修することができます。制度的には、今後、自由選択や高度国際性涵養の枠の拡大を検討することで、選択できる単位数を増やす可能性を探れるかも知れません。

<その他>

- 留学生との交流の場をもっと増やしてほしい

マルチリンガル教育センターでは大学院生の留学生が対応する「会話練習」（英語、中国語、韓国語、日本語）などの学習支援を行っています。また、多言語カフェへの参加、国際交流科目の受講、外国人留学生チューターへの応募などが考えられます。また、各キャンパスに国際教育交流センターの留学生交流情報室やセンターの分室がありますので、そこで交流の機会を見つけていけるかも知れません。

OU マルチリンガルプラザ <<https://plaza.cme.osaka-u.ac.jp/>>

- ドイツ語専攻の学生には必修授業が水曜日がないのに、ドイツ語カフェが水曜日にあり、不便
多言語カフェの管轄は全学共通教育機構になりますので、開催の曜日などはそちらで要望してみてください。
- 外国語学部の 20 単位をどのようにとっていくか知りたい。（1 年で何を取れるかも詳しく知りたい）

外国語学部の履修のことでしたら、箕面キャンパスの外国語学部の教務窓口、または、豊中キャンパス全学教育推進機構棟内の豊中分室でお尋ねください。

【質問】

- 留学の申込はマルチリンガル教育センターが仲介して手続きが進むのか？

国際教育交流センターや所属学部の留学生相談室が相談の窓口になります。マルチリンガル教育センターの方では、そうした仲介は行っていません。国際教育交流センターは、海外留学のガイドブックも発行していますので、活用してください。大学のウェブページも参考になります。（「大阪大学から海外留学したい方」
<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound>）

- マルチリンガル教育センターで行っていることは具体的にどのようなことか？

全学共通教育の外国語を担当するセンターです。教室での授業のほかに、英語の e ラーニングや TOEFL-ITP 試験の実施、学習支援のためのプラザの開設もセンターの活動です。

OU マルチリンガルプラザ <https://plaza.cme.osaka-u.ac.jp/>

【その他】

- 外国語カフェの存在が非常に助かっている

ありがとうございます。多言語カフェの実施は全学教育推進機構で行っていますので実施責任者にお伝えしておきます。今後もこうした声が広がっていくことを期待しています。

必修ではない言語系の授業は単位・試験を気にしてしまい履修をためらう

GPA については、卒業要件外の科目は計算に含まれません。学習したいだけで単位は不要という場合は、担当の先生に言って試験を欠席すればよいでしょうか。成績証明書には、修得した単位のみが記載されます。

※懇談会のテーブルでは、必修ではない言語を学びたいがどう履修すればいいのか分からないという声も聞きました。マルチリンガル教育センターが共通教育の授業を提供している高度国際性涵養科目に「初級 I・II（多言語学習用）」という授業があり、その枠で、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語が学べます。また、登録外でよければ、担当教員の許可を得て聴講するといったことが考えられます。